

平成20年度から学校を支援する諸施策が始まります

学校支援地域本部事業

- なぜ学校支援なのか！
行政改革推進法の成立
→教員の増は当面行わない国の方針
→学校支援ボランティアの活用
- 国における事業の目的
 - ①教員の負担軽減（子どもと向き合う時間の確保）
 - ②地域の教育力の向上（地域の連帯感形成と住民の生涯学習成果の活用）
- 雲南市における事業の目的
雲南市の子どもを育てるための学校支援体制の整備
- 事業の内容
 - ①中学校区単位に学校支援地域本部を設置（地域教育協議会の開催）
 - ②全小中学校に地域コーディネーターを配置（仮称：〇〇学校支援本部）

地域教育協議会



1. メンバーは？
学校長、公民館長、PTA代表、住民代表等
2. 何を話し合うの？
 - ①中学校区における子どもの状況等の情報交換
 - ②校区に合った学校支援の在り方の協議
 - ③校区内の連携・交流に関する協議など

地域コーディネーターの役割

1. 学校支援に関する学校・地域のニーズの把握
2. 学校支援ボランティアの発掘、派遣調整
3. 地域の「人・もの・こと」情報の「雲南市子ども応援団」への登録
4. 学校の情報発信、地域情報の伝達等の広報活動
5. 校区内の小中学校・幼稚園・保育所との連携・調整
6. 定期的に会議を行い、各校の取組状況等の情報交換 など

地域社会

「夢」発見プログラムの実践 地域教育協議会の企画・運営



「夢」発見プログラム

—雲南市キャリア教育推進プログラム—

1. 事業の目的
雲南市の子どもたちが「ふるさと雲南」の地域資源「人・もの・こと」や伝統文化にふれ、温かい人々との交流を通し、将来への夢や希望、勤労観、職業観を発達段階に応じて身に付ける学習プログラムを展開する。
2. プログラムの内容（4つの重点項目）
「平和と人権」「世の中のしくみと勤労」
「歴史と文化」「生活リズムと「食」」

雲南市子ども応援団

—雲南市教育ポータルサイト—

1. 雲南市子ども応援団とは
学校が教育活動において活用している地域の様々な「人・もの・こと」の集合体をいう。
2. 応援団の機能・活用方法
 - ①各校に配置される地域コーディネーターは、学校支援にかかわっていただいた人や、取り扱った地域資源の情報を随時応援団に登録する。
 - ②学校は、WEBサイト上から応援団の情報を入手し、教育活動に役立てる。